

授業実践研究

社会科 授業実践研究部

研究主題

主体的・対話的で深い学びを実現するための活用するICT
～新学習指導要領における『思考力・判断力・
表現力』の評価の研究～

狭山ヶ丘中学校	長谷川義博（リーダー）
富岡中学校	矢島 凌大
安松中学校	田嶋 克侑
美原中学校	吉田 俊

担当指導主事
齋木修二郎

社会科授業実践研究部

I 研究主題

主体的・対話的で深い学びを実現するために活用するICT
～新学習指導要領における「思考力・判断力・表現力」の評価の研究～

II 研究主題について

少子高齢化、グローバル化、人工知能（AI）の進化や技術革新、外国人労働者の増加等の影響、昨今の新型コロナウイルス感染症の拡大等、「予測困難な時代」と言われている中、日本の未来を担う子供たちに「社会科」という教科を通じて、どのような資質・能力を育成するべきなのか。

本研究部では、小学校で令和2年度から、中学校で令和3年度から全面実施された新学習指導要領を読み解き、これからの時代に特に必要とされる力は、「思考力・判断力・表現力」であると考えた。研究の中で、それぞれがどういった力なのかを明らかにしたい。また、「主体的・対話的で深い学び」の授業実践を通じて、児童・生徒の「思考力・判断力・表現力」を、どのように指導すれば高めることができるのか。そして、この3つの力をそれぞれどのように評価することができるのかを、研究を通して明らかにしたいと考え、本研究主題を設定した。

III 研究の内容

- 1 小学校・中学校社会科における新学習指導要領の「思考力・判断力・表現力」の分析
小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編（2017 文部科学省）には、「思考力・判断力・表現力」について、以下のように記述されている。

小学校社会科における「思考力、判断力」は、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて、学習したことを基に、社会への関わり方を選択・判断する力である。（中略）

小学校社会科で養う「表現力」とは、考えたことや選択・判断したことを説明する力や、考えたことや選択・判断したことを基に議論する力などである。

また、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編（2017 文部科学省）には、「思考力・判断力・表現力」について、以下のように記述されている。

「思考力・判断力・表現力等」については、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察する力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想する力や、考察したことや構想したことを説明する力、それらを基に議論する力として、（後略）

以上のように、小学校・中学校の学習指導要領では、「思考力・判断力」＝「考察する力（考える力）・構想する力（選択・判断する力）」（実線部）、「表現力」＝「説明する力・議論する力」（波線部）と捉えており、「思考力・判断力・表現力」と3つの力が1つのくくりになっているが、「思考力・判断力」と「表現力」では、それぞれ評価方法と評価場面が異なる。そのため、本研究部では、「思考力・判断力」、「表現力」をそれぞれ評価する場面に分けて、授業実践を行った。

2 「思考力・判断力」、「表現力」を高めるための手立てを工夫した授業実践の実施

本研究では、小・中学校における、「主体的・対話的で深い学び」を通して、「思考力・判断力」、「表現力」を高めるための授業実践を行った。授業実践では、「思考力・判断力」、「表現力」を高めるため、以下の3つの手立てを取り入れた。

- ・手立て1 「思考力・判断力」、「表現力」を高めるためのICTの活用
⇒Chromebookの活用（Jamboard、schoolTakt、インターネット等の活用）
- ・手立て2 「思考力・判断力」、「表現力」の見える化・構造化
⇒ワークシートの工夫、ツールミン図などの思考ツールの活用
- ・手立て3 「思考力・判断力」、「表現力」を高めるため、振り返りの時間の確保
⇒授業を振り返り、ワークシートにまとめることで、生徒の「思考力・判断力」、「表現力」を見とる

以下の実践例の中で、手立て1～3について、それぞれどのように実践したのかを触れ、生徒の「思考力・判断力」、「表現力」がどのように高まったのかを検証する。

3 児童・生徒の「思考力・判断力」、「表現力」の高まりをはかるための評価方法の工夫

テストの点数などで「見える学力」である「知識」に対し、「思考力・判断力・表現力」は「目に見えない学力」であるため、どの力がどれくらい高まったかをはかることは困難である。そのため、本研究部では、個人の「思考力・判断力・表現力」が、「主体的・対話的で深い学び」を通して、どのように変容したか・どれほど高まったかをはかるため、ルーブリックなどの判定基準を作成した。生徒やグループ活動での「思考力・判断力・表現力」の高まり・深まりをはかるためには、その評価方法や評価場面を明らかにすることが必要と考えた。

以下の実践例の中で、「思考力・判断力」、「表現力」をどのように評価したのか、実際の評価規準について触れ、評価方法や評価場面が適切であったのか等を検証する。



IV 実践例① <所沢市立狭山ヶ丘中学校の事例>

※「思考力・判断力・表現力」の中の「思考力・判断力」に重点を置いた実践①

1 単元名:地方自治と私たち 「より良い狭山ヶ丘地区を創るためにはどうしたらよいか」

2 単元の目標

- (1) 身近な地域である所沢市の政治の仕組みや、所沢市の財政を通して、地方自治の基本的な考え方や地方自治の課題について理解する。また、身近な地域が抱える問題や実情を諸資料から読み解き、インターネット等の資料を活用する能力を身につける。
(社会的事象についての知識及び技能)
- (2) 個人やグループで思考・判断を重ね、地方自治の課題や、身近な地域の問題について捉える。各グループで政策を構想する活動を通して、「より良い社会」を構想する。また、構想した政策は各グループで政策提案書にまとめる。(社会的事象についての思考力・判断力・表現力等)
- (3) 地域のまちづくりセンターの職員の方の話などから身近な地域の政治に対する関心を高め、「より良い狭山ヶ丘地区を創る」ための政策の構想に主体的に関わる。市民の一人としてより良い社会を築こうとする自治意識の基礎を育成する態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

3 単元の評価の観点と評価規準

評 価 規 準		
社会的事象についての知識及び技能 (主な評価場面)	社会的事象についての思考・判断・表現 (主な評価場面)	主体的に学習に取り組む態度 (主な評価場面)
<ul style="list-style-type: none"> ・地方自治の基本的な考え方や地方自治の課題について理解している。 ・所沢市が抱える問題を諸資料から読み解くことができる。(授業プリント、定期テスト) 	グループ活動を通して「より良い社会」を構想し、政策提案書にまとめている。(授業プリント、政策提案書)	地域の行政職員の話などから、「より良い狭山ヶ丘地区を創る」ための政策構想に主体的に関わろうとしている。(授業プリント)

4 単元の指導計画と評価計画 (全 11 時間)

時間	学習内容 学習活動	知 技	思 判 表	態 度	主な評価規準
1	生徒、地域の住民の現状把握、地方自治の仕組み・地方分権	○	○		・狭山ヶ丘地区の現状を捉え、市が抱える問題について考えている。
2	地方財政の仕組みと課題 地区の長所や課題について	○	○		・市の財政状況を通して、地方財政の仕組みや課題を理解している。
3 講義	地区の現状と課題、地域の取り組みについての講義		○	○	・市職員の話から、身近な地域の課題や市に必要な政策を考えている。
4	各班の一番の問題を決める (各班の問題設定) 手立て1 Chromebook の活用	○	○		・地域の問題を考え、班員と話し合い、問題を分析することで、班の問題を設定している。
5	各班の問題設定 問題解決の政策を構想する 手立て1 Chromebook の活用	○	○		・班の問題を解決するための政策案を、個人で具体的に構想している。

6 構想	より良い狭山ヶ丘を創る① 各班で政策を構想する 手立て2 ワークシートの工夫	○	○	・班の問題解決をするための政策を、学び合いを通して、構想している。
7	クラスで各班政策案の発表 政策構想の分析・評価		○	・各班の政策構想を4つの判断基準を基に分析し、評価している。
8 構想	より良い狭山ヶ丘を創る② 政策提案書にまとめる 手立て2 ワークシートの工夫	○	○	・練り上げた政策を、他者に分かりやすく政策構想をまとめている。
9	クラスで各班の政策構想の 発表、代表の政策を1つ選出		○	・4つの判断規準を通して、各班の政策構想を分析・評価をし、狭山ヶ丘地区に必要な政策を決定している。
10, 11 政策 発表	クラス代表の政策発表会 市行政機関から構想した政 策の評価、学習の振り返り 手立て3 振り返りの時間の確保		○	○ ・クラス代表班の政策構想から、市に必要な政策を分析・評価することができる。 ・自治意識の基礎を身につけている。 

5 「思考力・判断力」の判定基準（ルーブリック）

8時間目「より良い狭山ヶ丘地区を創る②」（班での政策構想） ルーブリック

単 元 の 評 価 規 準	班の政策構想	
	より良い社会を創るために、既存の解決策を分析・評価するだけでなく、新しい解決策を他者との学び合いを通して、4つの観点（政策の有効性、優先性、実現可能性、持続可能性）をもとに構想している。	
判 定 基 準	A	地域の抱える問題を具体的に把握し、狭山ヶ丘地区をより良くするための政策が政策構想の理由を支える事実や根拠をもとに分析されており、4つの観点をもとに政策を構想している。
	B	地域の抱える問題を把握し、狭山ヶ丘地区をより良くするための政策を構想した理由やその裏付けが考えられており、4つの観点のうち3つ以上の観点から政策を構想している。
	C	地域の抱える問題や、狭山ヶ丘地区をより良くするための政策を構想した理由やその裏付けが考えられており、4つの観点のうち2つ以上の観点から政策を構想している。

5時間目「より良い狭山ヶ丘地区を創る」政策構想（個人の政策構想） ルーブリック

単 元 の 評 価 規 準	個人の政策構想	
	・班で設定した問題を解決するための、具体的な政策案を構想している。 ・政策構想の理由を支える裏付けに、事実や根拠となる資料を活用している。	
判 定 基 準	A	各班で設定した地域の問題を解決するための政策案が具体的に構想されており、政策構想の理由を支える裏付けに事実や根拠となる資料を活用している。
	B	「より良い狭山ヶ丘地区を創る」ための政策案が構想されており、その政策構想の理由を支える裏付けに事実や根拠となる資料を活用している。
	C	「より良い狭山ヶ丘地区を創る」ための政策案が構想されており、その政策構想の理由に自分の考えが書かれている。

実践例② <所沢市立美原中学校の事例>

※「思考力・判断力・表現力」の中の「思考力・判断力」に重点を置いた実践②

1 単元名 人権と共生社会 「現代社会に必要な人権を考える」

2 単元の指導目標

- (1) 日本国憲法において、人権保障が大切にされている理由や社会の変化に伴って新しい人権が認められてきた理由について、対話的な活動を通して、多面的・多角的に考察・表現する。(社会的事象についての思考力・判断力・表現力等)
- (2) 人権保障が大切にされている理由や新しい人権が認められてきた理由について、現代社会に見られる課題の解決に向けて、自らの学習を振り返りながら、主体的に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)
- (3) 人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解する。(社会的事象についての知識及び技能)

3 単元の評価の観点と評価規準

評 価 規 準		
社会的事象についての知識及び技能 (主な評価場面)	社会的事象についての思考・判断・ 表現 (主な評価場面)	主体的に学習に取り組む 態度 (主な評価場面)
<ul style="list-style-type: none"> ・人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解している。 ・社会の変化に伴って人権の考え方が変化していく中でも、民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解している。(ワークシート・定期テスト) 	<ul style="list-style-type: none"> ・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配などに着目して、日本国憲法において、人権保障が大切にされている理由について、対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察、表現している。(ワークシート・定期テスト) 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権保障が大切にされている理由について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとしている。(ワークシート)

4 単元の指導計画と評価計画 (9時間)

時間	学習内容 学習活動	知 技	思 判 表	態 度	主な評価規準
1	平等権 ・日本にある差別を理解する。 ・差別をなくすためには、どのような努力がされてきたのか	○	○		<ul style="list-style-type: none"> ・現在も日本に残る差別の例を理解している。 ・差別をなくすために重要なことを、個人の尊重の観点から考察し、表現している。
2	自由権 ・精神の自由、身体の自由、経済活動の自由	○	○		<ul style="list-style-type: none"> ・自由権にはどのような種類があるか理解している。 ・自由権の保障が重要な理由を考察し、表現している。
3	社会権 ・人間らしい生活を営む権利、生存権、教育を受ける権利、勤労の権利と労働基本権	○	○		<ul style="list-style-type: none"> ・社会権にはどのような種類があるのか理解している。 ・社会権が保障された理由を、自由権との関係から考察し、表現している。
4	人権保障を確実に保障するための権利 ・「公共の福祉」と国民の義務、参政権、裁判を受ける権利、その他の請求権、「公共の福祉」、国民の義務	○		○	<ul style="list-style-type: none"> ・人権保障を確実にするための権利として参政権や請求権があるとともに、「公共の福祉」により、自由や権利が制限される場合もあることを理解している。 ・具体的な事例を基に、日本国憲法で人権を保障することが大切な理由を自らの学習を振り返りながら、考察することを通して、主体的に社会に関わろうとしている。

5	新しい人権 ・環境権、自己決定権、知る権利、プライバシーの権利	○	○		<ul style="list-style-type: none"> ・「新しい人権」が認められてきた理由を理解している。 ・新しい人権がどのような対立を解消するためのものか、考察し表現している。
6	SDGsについて① ・SDGsについての意味や目標 ・日本が進んでいる項目 遅れている項目	○			<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの17の項目について、意味や目標を理解している。
7	SDGsについて② ・4人班で項目を1つ選びJamboardを使い、意見交換を行う。 ・現状・解決策を調べ、意見交換を行い、まとめを記入する。 1 貧困をなくそう 5 ジェンダー平等を実現しよう 10 人や国の不平等をなくそう 13 気候変動に具体的な対策を		○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・選択した項目について、身近なものとして考察しながら、Jamboard上で意見を積極的に発信している。 ・SDGsについて、他者と議論することで多面的・多角的に捉え、自らの考えをまとめている。
8	現代社会に必要な人権を考える① ・これまでの学習を通し、現代社会に必要な人権を考える。		○		<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの観点、身近な体験などから現代社会に必要な人権が根拠をもとに考えられている ・個人の意見や他者との学び合いを通して、スライドを作れている。
9	現代社会に必要な人権を考える② ・スライドを見直し、班内で発表 ・班の代表者によるクラス内発表		○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・身近なこととして捉えながら、発表を聞いている。 ・身近な体験などをもとに、発表活動を行っている。

5 「思考力・判断力」の判定基準（ルーブリック）

8・9時間目「現代社会に必要な人権を考える」ルーブリック

評価 規 準	単元の	現代社会に必要な人権を考える（スライド作成）	
		・SDGsの現状や解決策を踏まえ、自分ができることを入れた具体的な人権を作成している。	
判定 基 準	A	SDGsの現状、解決策のまとめを踏まえながら、身近なこととして捉え、自分ができることを踏まえて現代社会に必要な人権を作成している。	
	B	SDGsの内容を踏まえて、現代社会に必要な人権を作成している。	
	C	SDGsの内容を踏まえて、現代社会に必要な人権を作成しているが未完成である。	

実践例③ <所沢市立安松中学校の事例>

※「思考力・判断力・表現力」の中の「思考力・判断力」に重点を置いた実践③

1 単元名 第3章 現代の民主政治と社会 第1節 現代の民主政治

2 単元の目標

- (1) 国会を中心とした民主政治の仕組みや、議会制民主主義の意義など政治の基本的知識を身に付け、グラフや統計資料から選挙制度やマスメディアの情報を読み取る。(社会的事象についての知識及び技能)
- (2) 投票率が低い原因について多面的・多角的に考察し自分の言葉でまとめる。(社会的事象についての思考力・判断力・表現力等)
- (3) 日常生活で起きている政治的課題について自ら学ぼうとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

3 単元の評価の観点と評価規準

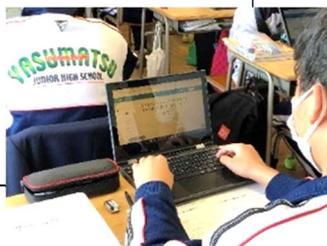
評 価 規 準		
社会的事象についての知識及び技能 (主な評価場面)	社会的事象についての思考・判断・表現等 (主な評価場面)	主体的に学習に取り組む態度 (主な評価場面)
日本の選挙制度、政党などを理解し、選挙の課題を読み取り、課題に対しての自分なりの解決策を考えている。(ワークシート、定期テスト)	選挙の課題、若者の投票率が低い原因を様々な情報の中から選択し判断し、考えている。(ワークシート)	日常生活での政治的ニュースに興味を持ち、日ごろから政治に対して関心を持ち、課題に対して取り組んでいる。(授業中の発言、振り返りカード)

4 単元の指導計画と評価計画 (全6時間)

時間	学習内容 学習活動	知 技	思 判 表	態 度	主な評価規準
1	政治の仕組み、民主主義		○		・民主主義の重要性について考えている。
2	選挙の基本原則、選挙制度	○			・選挙が必要な理由を理解している。
3	政党の構成、総裁選と総理	○	○		・政党について理解している。 ・政党と国民の関係について自分なりに考えている。
4	マスメディアの影響		○		・マスメディアによってどのように情報を掴んでいるかということ、資料を参考に選択し、判断しまとめている。
5 構 想	投票率を上げる為に必要なこと、調べ学習	○		○	・自分達への生活において政治がどう影響しているかを理解している。 手立て1 Chromebook の活用
6 発 表	若者の投票率を上げる方策を全体で考える。		○		・投票率を上げる為に必要な事が何かを制度の視点と内面の視点の両方の視点で自分の言葉でまとめている。 手立て2 ワークシートの工夫

5 本時の学習展開

	生徒の活動	指導上の留意点	資料等
導入 10 分	1 「若者よ選挙に行くな」の動画を見る。 2 年代別投票率を見る。	・若者が選挙に行かないとどうなるかを確認する為に、動画を活用する。 ・年代別投票率を見せ投票率を低い事を理解させる為に、グラフの提示をする。	日本財団の年代別投票率

	3 若者が選挙に行かない理由について資料を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時では若者の定義を10～20代とする。 ・若者が選挙に行かない理由のデータを見せ、投票率が低い事を全員で共有する。 	
本時の目標：若者の投票率を上げる為に必要な事は何だろう？			
展開 30分	<p>4 生活班隊形になり、前時までに調べた解決策を用紙に書き、黒板に貼りに行く。</p> <p>【前時までの調べた内容】</p> <p>若者が選挙に行かない理由を参考に、選挙に行かない若者へ向けた対策を考える。これまでの授業の内容を参考に政党、メディア、SNS、選挙制度などを参考にまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に多面的・多角的な思考を促す為に、現状の課題から自分達で解決策を構想させる。 	 school Takt
<p>理由</p> <p>①選挙に行くのが面倒くさい →政党の事をよくわかっていないので結局どこに入れたら良いのかわからず面倒くさい事に繋がっているかもしれない。政党の比較や公約を電車や駅、コンビニなど目につく所に掲示してもらおう。</p> <p>②時間的に忙しい →選挙は何時間もかかるものではなく、10分もかからず終わる。街の選挙マップを作成し、どこに投票所があるのかを作成する。</p> <p>③誰に投票して良いのかわからない。 →政党のマニフェストや小選挙区の仕組みから自分の住んでいる候補者リストを誰もが目につくところに置く。</p> <p>④選挙に行っても変わらない。 →高齢者優先の政策になってしまう。我々の奨学金や雇用の増加に向けたものがもっとあると良い。また、選挙に行かないと罰金にしている国もあるので罰金制度も作るべきだ。</p>			
<p>5 黒板に貼られたものを参考にし、自分は何の対策が良いのかを schoolTakt に書き出す。</p> <p>6 【補助発問】「罰を受けたくないから選挙に行くのは本当に正しいのだろうか」について考える。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・様々な意見に対して、自分で情報を選択し自分の意見を出す。 ・選挙としっかりと向き合った1票と罰などから逃れる為に投じた1票が同じであることを考えさせる。 	
まとめ 10分	7 若者の投票率が低い原因が自分で考えていたものと今回の授業を通してどう変化したのかをまとめる	<ul style="list-style-type: none"> ・制度の視点だけでなく、補助発問を通して社会参画の視点に着目させる。 	

6 「思考力・判断力」の判定基準（ルーブリック）

まとめで制度の視点と社会参画の内面の視点の両方について触れている。ルーブリック

評価 規 準	現代社会に必要な人権を考える（スライド作成）	
	<ul style="list-style-type: none"> ・選挙の課題、若者の投票率が低い原因を様々な情報の中から選択し判断し、考えている。 	
判定 基 準	A	最初の段階では、政策や行う取り組みなど制度という視点が重要であったと思うが授業を通して、若者が選挙に行かないのは内面的な部分があると考えた。若者の投票率を上げるには、社会参画の面で選挙に向き合う心が大切だと思った。
	B	若者の投票率を上げる為には制度の部分で更に若者向けの者を行うべきである。高齢者向けの政策ばかりになってしまうので、若者向けの政策をしっかりと考えるべきだ。
	C	若者がもっと選挙に行けるようにするべきだ。

実践例④ <所沢市立上新井小学校の事例>

※「思考力・判断力・表現力」の中の「表現力」に重点を置いた実践①

1 単元名：わたしたちの生活と政治「子育て支援の願いを実現する政治」

2 単元の目標

- (1) 地方公共団体の政治の働きに関心を持ち、国民生活には地方公共団体や国の政治の働きが反映していること、政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることがわかるとともに、我が国の政治の働きと国民生活とのかかわりを考える。(社会的事象についての思考力・判断力)
- (2) 地方公共団体の政治の働きに関する社会的事象から学習問題を見出し、聞き取り調査をしたりするなどの学習計画を立て、資料を活用して調べたことをまとめるとともに、政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることについて思考判断したことを適切に表現する。(社会的事象についての表現力)

3 単元の評価の観点と評価規準

評 価 規 準		
社会的事象についての知識及び技能 (主な評価場面)	社会的事象についての思考・判断・表現 (主な評価場面)	主体的に学習に取り組む態度 (主な評価場面)
・政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを理解している。(ノート)	・我が国の政治の働きと国民生活とのかかわりについて、考えたことを根拠や理由を明確にして論理的に説明している。 ・自分自身の考えを基に、他者の考えと比較しながら、立場や根拠を明確にして議論している。(授業中の発言・ノート)	・社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を身につけている。(ノート)

4 単元の指導計画と評価計画 (全6時間)

時間	学習内容 学習活動	知 技	思 判 表	態 度	主な評価規準
1	子供をもつ親たちの願いと児童センターの建設について話し合い、学習問題を立てよう	○	○		・子育て支援事業など、地方公共団体の政治の働きについて、学習問題や予想、学習計画を多角的に考えている。
2	ルピナスでは、どのような活動が行われているでしょうか		○		・子供支援施設は市民の願いを取り入れながら活動していることについて、理由を明確にしてまとめている。
3	市民の願いを実現するために、市役所はどのような働きをしたのでしょうか	○			・子育て支援事業など地方公共団体の政治の働きについて、資料から必要な情報を読み取り理解している。
4	子育て支援のための費用はどこから出のでしょうか		○		・政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを多角的に考え、社会への関わり方を選択、判断している。
5	よりよい子育て支援を実現するための提案書をつくらう		○		・市民の願いと政治の関わりについて多角的にとらえ、他者と議論しながら提案書を作成している。

手立て2 ワークシートの工夫

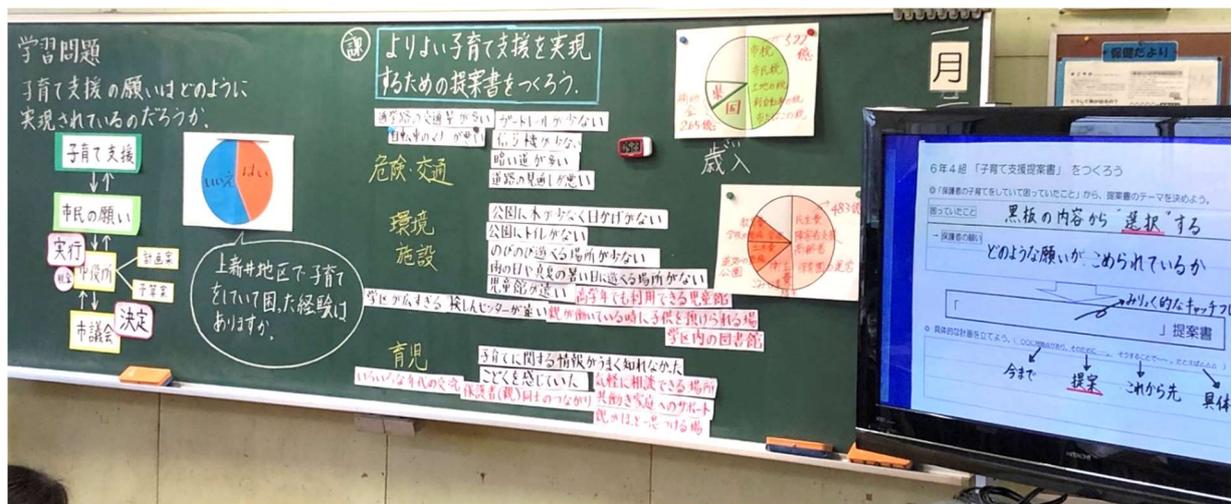
6	暮らしやすい社会とするためには政治と市民がどのように関わっていったらよいのだろうか	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 地方公共団体が市民の願いを取り入れながら国と協力していること、政治は国民生活の安定と向上を図るために重要な働きをしていることについて考え、他者と議論している。
---	---	---	---	---

手立て3 振り返りの時間の確保

5 「表現力」の判定基準（ルーブリック）

4 時間目 「よりよい子育て支援を実現するための提案書をつくろう。」ルーブリック

単元の評価規準「表現力」	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の政治の働きと国民生活とのかかわりについて、考えたことを根拠や理由を明確にして論理的に説明している。 自分自身の考えを基に他者の考えと比較しながら、立場や根拠を明確にして議論している。 		
本時の評価規準	表現力 <ul style="list-style-type: none"> 市民の願いと政治の関わりについて多角的にとらえ、<u>他者と議論しながら提案書を構想している。</u> 		
判定基準	個人	A	地域の抱える問題を具体的に把握し、根拠を3つ以上持ちながら、よりよい子育て支援を実現するための提案を構想している。
		B	地域の抱える問題を把握し、根拠を1つ以上2つ以下持ちながら、よりよい子育て支援を実現するための提案を構想している。
		C	地域の抱える問題について把握しているが、自らの考えが持てていない。または根拠を持った提案を構想することができていない。
	グループ	A	自らの考えを他者の考えと比較しながら、立場や根拠を明確にして議論し、「よりよい子育て支援を実現する提案書」を構想している。
		B	他者と議論をしながら「よりよい子育て支援を実現する提案書」を作成している。
		C	他者の話を聞きながら「よりよい子育て支援を実現する提案書」を作成している。



実践例⑤ <所沢市立富岡中学校の事例>

※「思考力・判断力・表現力」の中の「表現力」に重点を置いた実践②

1 単元名 平和主義を、所沢基地問題を通して考えよう

2 単元の目標

- (1) 法の支配と基本的人権の尊重をベースに、日本国憲法 9 条及び平和主義に基づいた日本の安全保障政策について理解する。(社会的事象についての知識及び技能)
- (2) 資料や調査から明らかになった内容を整理、考察し、日本国憲法 9 条及び平和主義に基づいた日本の安全政策について根拠を明確にして説明させる。(社会的事象についての思考力・判断力・表現力等)
- (3) 日本国憲法 9 条の意義や、自衛隊や基地問題等の多様な解釈を理解し、自分の立場を明らかにするとともに、他者の意見を聴くことで、新たな気づきを得る。(学びに向かう力、人間性等)

3 単元の評価の観点と評価規準

評 価 規 準		
社会的事象についての知識及び技能 (主な評価場面)	社会的事象についての思考・判断・表現 (主な評価場面)	主体的に学習に取り組む態度 (主な評価場面)
<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法の意義や集団的自衛権、日米安全保障条約について理解している。 ・米軍基地が日本におかれることとなった背景と、それに伴い生じる事象について理解している。(授業プリント・定期テスト) 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本が現在にかけて目指してきた憲法改正の内容を、憲法 9 条を中心に吟味し、自分の立場を踏まえた意見を、根拠をもって記述している。 ・米軍基地移設問題にまつわる様々な意見を整理し、その根拠を明確に説明している。(授業プリント・定期テスト) 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法 9 条や自衛隊、基地問題等を自分と関連づけ、自身の立場を明らかにしようと積極的に調査、議論、傾聴している。(振り返りカード・授業プリント)

4 単元の指導計画と評価計画 (全 4 時間)

時間	学習内容 学習活動	知 技	思 判 表	態 度	主な評価規準
1	平和主義の意義と日本の役割	○	○		<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法の意義や集団的自衛権について理解している。 ・日本が目指してきた憲法改正の内容を、憲法 9 条を中心に吟味し、自分の立場を踏まえた意見を、根拠をもって記述している。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">手立て3 振り返りの時間の確保</div>
2	所沢の米軍基地についての調査/日米安全保障条約の復習	○		○	<ul style="list-style-type: none"> ・米軍基地が日本におかれることとなった背景と、それに伴い生じる事象について理解している。 ・日本国憲法 9 条や自衛隊、基地問題等を自分と関連づけ、自身の立場を明らかにしようと積極的に調査している。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">手立て2 ワークシートの工夫</div>
3	所沢の米軍基地問題でのディベート準備			○	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法 9 条や自衛隊、基地問題等を自分と関連づけ、自身の立場を明らかにしようと積極的に議論している。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">手立て1 Chromebook の活用</div>
4	所沢の米軍基地問題でディベートをしよう		○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・米軍基地移設問題にまつわる様々な意見を整理し、その根拠を明確に説明している。 ・日本国憲法 9 条や自衛隊、基地問題等を自分と関連づけ、自身の立場を明らかにしようと積極的に傾聴している。

5 「表現力」の判定基準（ルーブリック）

4時間目「所沢の米軍基地問題でディベートをしよう」ディベート ルーブリック

判定基準	A	ディベートを通じて出た多様な意見をもとに、改めて自分の立場を明らかにし、所沢米軍基地問題に対する根拠を明確にして説明できている。 例) 所沢に関わらず、朝鮮や中国への脅威に対応するための米軍基地は日本に危険をもたらすので存在自体反対だったが、市の財政や雇用のこと、移設や撤去にかかるお金のことを考えると、現実的に難しいと思った。
	B	ディベートを通じて出た意見をもとに、改めて自分の立場を明らかにし、所沢米軍基地問題に対する根拠を明確にして説明できている。 例) 基地返還は難しいと思っていたが、これまでに所沢市が歩んできた基地返還運動の歴史を知り、米軍も強硬な対応ではなく、予算も数年規模で考えれば何とかできるので、このまま基地を日米合同スポーツ施設にできるのではないかと思った。
	C	ディベートを通じて出た意見をもとに、改めて自分の立場を明らかにし、所沢米軍基地問題に対する根拠を説明できている。 例) 基地があることで騒音や米軍による犯罪による問題があるので、私は基地を置くこと自体に反対である。

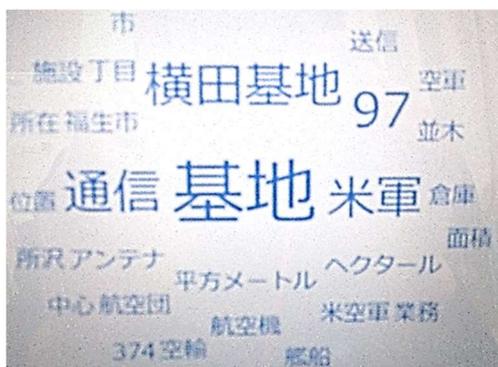
6 生徒の振り返り例

<基地移設に賛成の場合>

- ・移設には確かにお金や時間がかかるけれど、基地があることで困る人があまりいない所に移転させた方が良いと思う。
- ・基地の移設が達成できれば、そこに新たな商業施設を創ることができ、町の活性化につながると思うので、お金が沢山必要になるが市民の願いとして移設してほしい。
- ・実際に部品落下などの事故があり、付近に住んでいる住民が安心して暮らすことができていないから移設してほしい。(また、国が思いやりで費用を出しているのが納得できないので、基地自体いらないうと思う。)

<基地移設に反対の場合>

- ・私は小さいときから飛行機の音にも慣れているから騒音は気にならない。基地の移動にも維持にもお金がかかるなら、そのまま残しておけば日本はアメリカに守ってもらえるので維持が良いと思う。
- ・所沢の基地は通信基地なので騒音問題はないため、移設の必要性はないと思う。日米安保条約を撤廃して基地をなくしたとしても、日本が戦力を持たなければならなくなってしまう場合、憲法改正にも関わってくると感じたから。



(school Takt 活用例)

V まとめと課題

本研究では、中学校社会科3年生の「公民的分野」4事例、小学校社会科6年生の「わたしたちの生活と政治」の単元で1事例、計5事例の実践に取り組んだ。また、「思考力・判断力・表現力」のうち、「思考力・判断力」の実践を3事例、「表現力」の実践を2事例と、評価方法と評価場面を分けて実践授業を行った。どの実践も、「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、ICTを活用した実践となり、児童・生徒の「思考力・判断力・表現力」の高まりをはかるために、判定基準（ルーブリック）を作成し、評価方法について分析・検討した。

以下、本研究の成果と課題についてまとめた。

本研究の成果

- 1 「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、ICTを活用した先進的な授業実践の実施

ICTを活用してインターネットで情報を調べたり、情報をもとに課題をまとめたり、Jamboard やスクールタクト等の共同編集作業を通して、「思考力・判断力」、「表現力」を高め、「主体的・対話的で深い学び」の授業実践を重ねることができた。デジタルネイティブの子供たちは、ICTを柔軟に使いこなし、ディベートの資料の作成、小グループでの学び合いや情報交換、プレゼンテーション等、「思考・判断・表現」する場面において効果的に活用していた。

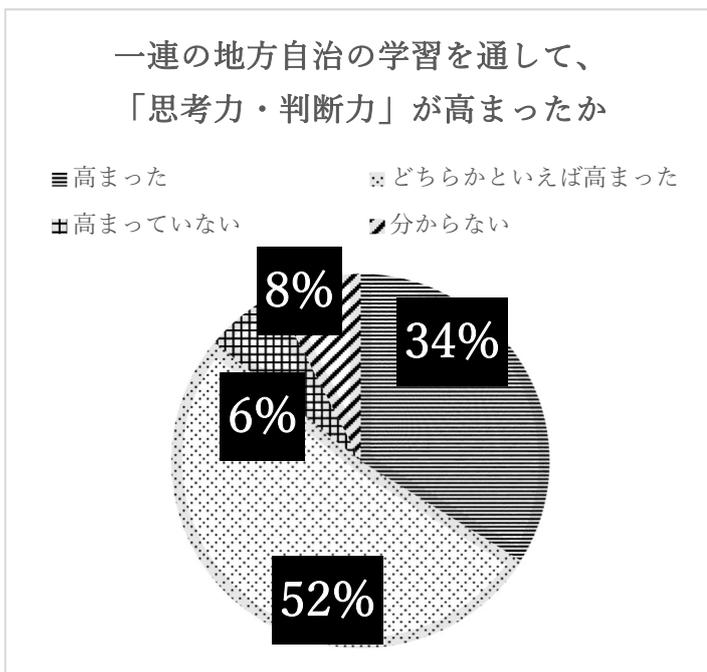
- 2 「思考力・判断力・表現力」を高めるための判定基準（ルーブリック）の作成

本研究では、実践例①～⑤にあるように「思考力・判断力」と「表現力」に評価場面を分けて、それぞれの実践で判定基準（ルーブリック）を作成し、評価の研究を進めることができた。

実践例①の授業後に行った生徒アンケートでは、一連の地方自治の学習を通して、生徒の「思考力・判断力」が高まったかという質問に対し、高まった（どちらかといえば高まった含む）と答えた生徒は86%であった。

実践例②～⑤の実践についても、判定基準（ルーブリック）をもとに、生徒のワークシートを評価したり、A～Cの具体的な記述例を提示したりするなど、「思考力・判断力・表現力」の

評価について研究を深めることができた。



3 「思考力・判断力・表現力」の可視化、構造化の工夫

ワークシートを工夫することにより、目には見えない「思考力・判断力・表現力」等を可視化、構造化するための実践を行うことができた。また、Jamboard やスクールタクトなどのICTツールを利用し、共同編集作業をする中で、小グループでの思考の共有化もはかることができた。

実践例① 班の政策提案書（ツールミン図を活用したワークシートの工夫）

狭山ヶ丘の政策提案書②

組・グループ番号(3・5)班のメンバーの名前(.....)

1. 政策名(主張) 私たちは、より良い狭山ヶ丘地区を創るため...

商店街 リニューアル計画

という政策を提案します。

解決するために

2. 班の問題設定

・周りには、生活に必要な最低限の店舗しかなく、娯楽の店が少なめ。
 ・他のショッピングセンターに行くのはお金と時間がかかる。
 ・地元の特産品の知名度が低い。
 ・ショッピングセンターを作ろうとしたが予算と土地の問題があった。

3. 政策構想の理由

・開いているお店が少なくて、お祭り活気があがるように感じず、寄りやすい。
 ・他のエリアから、実現性がないという意見があった。今のままのままでいい。

4. 理由の裏付け(事実や資料をもとに)

〈他のエリアからのポイント〉

- ・場所が広いからと、簡単なものにする
- ・定年退職した人など、層の厚いほうが?
- ・お金と土地がない、特産品は具体的に。

⇒ 17で行くよ 24560 44240 44240 44240

5. 政策の具体的な内容(実施方法や期限、場所、数値目標、予算など)

- 駅が近いので、気軽に立ち寄れる。お洒落な人も利用しやすいように!
- 開いているお店に新しくお店をやる。
 - ・ 特産品(ジャスト、ヒヨコおやつ)
 - ・ 若者にも人気なカフェ
 - ・ 家族が来る飲食店。
- 高齢者が多いので、高齢者に人目を引かせてみる。幅広の歩道で、できる。

外観を明るくする。和風お洒落

6. この政策が実現されると... (こうした効果、メリットが考えられます。)

- ・ 駅が近いから、寄りやすい。
- ・ 開いている店に新しい店をやることで、活気がつく。
- ・ 99歳の年代の人をターゲット。色んな意見が聞けて、開業してからより活性化につながる。

7. この政策が実現されると... (こうした影響、デメリットも考えられます。)

- ・ 前から開いている店に取替わると、他のお店がまた閉業するかも。
- ・ 元の商店街の人たちに負担が。

8. 班で構想した政策(改善案)を自己評価してみよう(発表終了後に使います)

1~4に○をつける(1課題が多い 2少し課題がある 3優れている 4とても優れている)

① 有効性はあるか	(1 . 2 . 3 . 4)
② 優先性はあるか	(1 . 2 . 3 . 4)
③ 実現可能性はあるか	(1 . 2 . 3 . 4)
④ 持続可能性はあるか	(1 . 2 . 3 . 4)

4 「社会に開かれた教育課程」を意識した授業実践（所沢市職員の方々への政策提案場面）

令和元年の実践では、保護者に向けた身近な地域に対してのアンケートの実施、地域のまちづくりセンターの職員や、所沢市子ども支援センターの職員などの外部講師を招いての講義、また、市の職員に向けて、より良い地域を創るための政策の提案など、外部機関の方々や保護者などを巻き込んだ授業を実施した。こうした活動を通して、新学習指導要領に明記されている「社会に開かれた教育課程」を意識した、より良い社会を創るための授業実践に挑戦することができた。



「主体的・対話的で深い学び」を実現し、児童・生徒の「思考力・判断力・表現力」を高めるために、学校内の教育活動だけでなく、保護者や地域、外部機関の力を活用することで、児童・生徒の学習効果を高めることができた。

本研究の課題

1 「主体的・対話的で深い学び」を実現するためのICT活用の検討と研修の実施

今年度から所沢市でも本格的に始まったGIGAスクール構想。教師側も生徒側も、まだ手探りでやっている段階のため、「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、どの場面でICTを活用することが効果的なのか、Jamboardやスクールタクトなどのツールの活用方法や活用場面など、今後検討していく必要がある。児童・生徒は、タブレットを社会以外の教科でも活用する場面が増えているが、授業をする教師側が活用スキルを磨かないと十分な効果も得られないため、今後授業実践や職員研修などで、教師側の活用場を増やしていくことが求められる。

2 年度をまたいだ研究の統一性

新型コロナウイルス拡大の影響で、研究員同士の対面の研修を十分に重ねることができず、研究の統一性を出すことが難しかった。本来であれば、授業前後に研究員間で統一したアンケートなどを実施し、データを収集することが望ましいが、そうした事前準備をすることができなかった。研究のデータを蓄積することができなかったため、「主体的・対話的で深い学び」を実現するためにICTの活用が効果的なのか、実践授業を通して「思考力・判断力」、「表現力」が高まったのかなど、検証を十分にすることができなかった。

また、令和元年と令和3年度と、1年空白の時期ができてしまい、研究員の異動やメンバーの変更などもあり、年度をまたいで研究の統一性を出すことが難しかった。

3 判定基準（ルーブリック）の妥当性の検証と今後の分析

それぞれの実践で、教師が設定した判定基準が適切だったのか、判定基準によって正しく「思考力・判断力」、「表現力」を見とることができたのかなど、詳しく分析することまではできなかった。そのため、今後、生徒の書いたワークシートなどをもとに分析をしていく必要がある。

以上のように、「主体的・対話的で深い学びを実現するために活用するICT」の研究を通して、研究の成果を挙げることができた一方で、多くの課題を残した。本研究の成果と課題を今後の教科指導に生かし、今まで以上に授業内でICTを活用し、「主体的・対話的で深い学び」を実践できるよう授業改善に取り組みたい。